



## カンボジアの子どもたちに教科書を

2012年 6月 No. 41

### カンボジア訪問報告

#### 市井秀治

#### リティさんの健康状態と対応策

6月9日・10日の二日間、プノンペンを訪問しました。今回の訪問の最大の目的は、現地で当会の活動を長年行っているリティさんの健康状態を確認すること、銀行口座の管理・現地の会計手続きの確認、リティさんの助手の採用の検討などがありました。今回は日程の関係で土日の訪問となった為、子ども達の姿を見ることはできませんでしたが、現地の状況を十分把握すると共に、近年になって当会の支援対象になった学校の校長などとも初めて面会することができ、大変有意義な二日間となりました。

2010年末に日本へ招待してから、約1年半ぶりの再会となったリティさんですが、先月突然のめまいから運転中に気を失ってしまい、交通



リティさん

事故にあっています。写真の通り、顔にはその時の傷がまだ残っていますが、今回訪問に際して行った会議などでも、当会の活動は問題無く行えています。普段の生活も大きな支障は無いものの、慢性的な不眠症とめまいにより気を抜けない状況ではあります。気を失ったのは昨年が初めてで、今回が2回目ということです。それ以来定期的に病院に通っていましたが、未だに原因が判っていません。

当会としては今のところ見守ることしかできませんが、リティさんの体調を常に念頭において、今後の活動には助手を採用することなども、一つの案として検討していきます。

リティさんにもしものことがあった場合、当会の資金が引き出し不

～目次～	
カンボジア訪問報告	
リティさんの健康状態	1
支援先校長との会合	2
スタッフ紹介	4
ボランティアさんの感想	5
事務報告	6

能となってしまうことを避けるため、カンボジア現地で当会の銀行口座を新設して、共同名義人を設定することとしました。共同名義人は現地の人である必要があるため、リティさんと17年間仕事を共にしている、最も信頼がおける人物にお願いすることとなりました。写真右のチンさんという方で、リティさん同様国家公務員として仕事をしており、JICAの研修を通じて2週間ほど日本を訪問したこともあるそうです。3人で夕食を一緒にしましたが、人柄も誠実で信頼がおける人物であることが感じ取れ、何よりリティさんとの間で固い信頼関係がある為、共同名義人としては最適の人物であると考えております。また、チンさんとは日常の連絡手段、どのような場合に資金の引き出しをお願いするかなどを明示した、正式な契約書を締結してあります。



リティさんとチンさん

### 教科書支援校の校長・先生とお会いしました

昨年からルセイサン小学校・ワットハー小学校だけでなく、その他9校にまで拡大した教科書支援ですが、今回学校 No. 1, 4, 5 の3校を除いて、全校長が出席する中、ミーティングを行いました。今年度(2011年10月からの年度)は、10月1日に教科書支給が間に合いませんでした。原因として挙げられるのが、1年生の登録が学期の始まった段階でも確定しておらず後から登録する子供がかなりの数にのぼること、政府による教科書内容の改訂が毎年あること、貧しい家庭が転居を繰り返すこと、などです。



小学校校長とのミーティング

これらを理由に新学期に各校何冊の教科書が必要なのか正確に把握するのに時間がかかったり、印刷が間に合わなかったりしているのが現状です。せつかくの教科書支援ですので、新学年の1日目から全員に教科書が渡されるよう、今回のミーティングではその対策が話し合われました。議論はルセイサン小学校の

校長とリティさんが中心となり活発に行われ、今年使用した教科書の回収を7月の段階で確実にいき、8月には教科書購入に向けて早めに準備に取り掛かること、購入してあまった教科書は図書館用としても活用できるので、昨年までの経験に基づき初めからある程度余裕を持った数の教科書を購入することなどを決定しました。

### 幼稚園・識字学校の支援も継続しています

全校長とのミーティング終了後、識字学校を運営している学校 No.9 の校長、幼稚園を運営している学校 No.8 の校長、ルセイサン小学校の校長、前回のニューズレターでお知らせした当会が給与を支払う形で採用したルセイサン幼稚園の先生の4名と個別にミーティングを行いました。学校 No.9 の識字学校に関しては、当会で教室の家賃や文房具・教科書などの支援を行ったことが功を奏し、非常に順調な様子が確認されました。この識字学校に子どもを送っている親は、貧しい家庭が多く、このような教育の機会があることに非常に感謝しており、積極的に子どもを学校に送り出しています。その結果、子どもの数は常に30人を超えています。

学校 No.8 の幼稚園も常に30人以上の園児が来ており、非常に活発な状況が続いています。この幼稚園の子供と親も教育熱心なので、当会ではこういう所にこそ何か支援をしてあげると考えています。今回、校長と直接話してみて明確になった支援の必要な項目としては、



### 左から時計回りに学校8、学校9の校長、ルセイサン幼稚園の先生、リティさん

当会の教育支援という活動の目的に照らし合わせて慎重に支援を行うかどうか検討していきたいと思っています。

最後に、なかなか子どもの数が増えなかったルセイサン幼稚園ですが、当会で採用した元アジア未来学校の先生が非常に優秀で、子供の

①黒板、②壊れた床の補修、③トイレの補修があります。トイレに関しては、以前日本のNGOが作ってくれたものの、それが故障したため現在学校にはトイレが無いとのことです。これはカンボジア全土で問題になっていることだそうで、特に女子生徒にとってはそもそも学校に来ることをためらう理由にもなっています。修理には250ドルほどかかるため、現状放置している状況です。それぞれについて、

数も27人まで増えてきているようです。たいへん教育熱心な先生で、自発的に家庭を訪問し子どもの通園を促すなど地道な努力が実を結んだ結果と思われる。当会としては、代わりの先生を現段階で見つけることが困難なこともあり、この先生に引き続き新年度も教えてもらいたいと考えておりますが、当初の計画では学校が休みになる8月・9月に先生と雇用契約を結ぶ予定が無かったため、先生は実質無職となり他の仕事を探す必要が出てきます。先生を今後どのような形で引き止めるかについても慎重に検討していきたいと思っております。

## スタッフ紹介

### 斉藤乃章（会社員）

皆さん、こんにちは。今年2月からお手伝いさせていただきます斉藤です。現在金融機関に勤めています。土日中心の活動になりますが、微力でもお役に立てればと思いスタッフに参加することにしました。どうぞよろしくお願ひします。



ボランティアはこれまでに何回か経験がありますが、積極的に参加するようになったのは今年の東日本大震災からです。昨年から今年の冬にかけて瓦礫処理や被災住宅への傾聴活動などをやってきました。そんな中以前から関心のあった国際協力のボランティアのHPをネットで見ているうちに、当会に行き着くことになりました。日韓の歴史や東南アジアについては教科書的な知識とマスコミによってしか知らない私でしたが、当会の趣旨である「日韓の若者が協働してアジアの恵まれない人達を支援する・・・」に強い共感を覚えました。大げさですがアジアでのこれからの日本の立ち位置のようなものの一つのあり方が、示されていると感じました。

初めて参加した2月の文京フェスタは会の情報宣伝活動と韓国茶の販売が主な目的でしたが、自分にとっては販売代金を現地へ送ることで直接教科書何十冊に変わるのだという『目に見えるわかり易い支援』を実感できました。

今後の抱負ですが、①会のイベントには積極的に参加し、そこから考えまた行動していく、②東南アジア、特にカンボジアの政治経済、文化からボランティアの実態などあらゆる分野の勉強を自分なりにする、の2点です。これまでの自分の経験や世代ならではの考え方を基にして色々ぶつかって行って、結果的に当会の発展に何らかの形で寄与できればいいなと思ひます。また近い将来是非カンボジアに行って現地を見て感じてみたいと思ひます。志を同じくする若い人を応援しながら、黒子のような活動が出来ればと思ひています。

## ボランティアの感想から

### 心のつながり

板垣 智絵（会社員）

何か物足りない気持ちを抱えながらも、仕事の忙しさにかまけて日々を過ごしていました。そんな時、インターネットで日韓アジア基金のボランティア募集の広告を見つけ、自分の中に新たな「風」を吹き込ませたいと思い参加しました。

作業はアットホームな雰囲気、また幅広い年齢層、様々なバックグラウンドの人達が来ており、とても良い刺激を受けることができ、貴重な体験をさせて頂いたと思います。

今回のボランティア活動は、人と人とのつながりについて改めて考える良いきっかけになりました。自分たちで袋詰めしたニュースレターが届く先の日韓アジア基金を応援している人達、そしてカンボジアにいる子供達、その人達をつないでいるスタッフのみなさん、住んでいる所は遠く離れていてもつながっている、そんな風に感じました。



ほんの少しの行動で、人は人の役に立つことができる。ただいつでもその「ほんの少し」の一步を踏み出すのが難しいのだと思います。これからも自分にできることを、少しずつでもやっていきたいと思っています。

この子たちとつながっています

### ボランティアに初めて参加して

久保寺 美玖（学生）

3月の曇り空、肌寒い日、大学受験が何とか終わり卒業までの空いた時間を有意義に過ごしたいと思って、不安を抱きながらも母を誘って参加しました。作業に集中していたため会話は少ないものの、自己紹介などもあり、初対面の人同士でも楽しく過ごすことが出来ました。



作業説明。リピーターの方は余裕の笑顔です

ボランティアは学生がほとんどを占めているのではないかと思っていましたが、忙しい合間を縫って参加する社会人の方も多く、その積極的な姿勢に感銘を受けました。スタッフから伺っ

た色々なお話の中で、私が最も心に残った言葉、それは「恩送り」です。恩返しとは異なり自分が誰かのために恩を送り、恩を受けた人は与えてくれた人ではなく、他の誰かに恩を送る……これがボランティアの真髄ではないかと思いました。

今回ニューズレターの発送をすることで、恩送りの一端を少しはお手伝いできたのではないかと考えています。

当会イベントにボランティアスタッフとして参加下さった方(敬称略・五十音順)

2012年3月4日 ニューズレター40号 発送作業

有馬美代・板垣智絵・奥山 和・久保寺美玖・久保寺由起子・田口りさ・堤 浩亮・中内彩香・築田沙紀・山口佳恵・ユー ファヨン

2012年2月29日～5月28日に会費・ご寄付を下された方 敬称略・五十音順(別枠除く)

磯尾 彊一	小川 英	柴田 義之	高橋 周孝	平塚 千尋	矢崎 芽生2件
岩見 豊子	語ろう会	曾根 文子	田中 節子	三品 徹	山越 栄子
大塚 紀子	川辺 寛子	高木 修	弟子丸佳子	谷池 教子	山根 寛
小川 友理	小林栄次郎	高木 桂子	中川 敦司	薬師真理子	兪 和暎 3件

ボランティア 野菊の会 | 匿名寄付2件

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員:年会費 5,000円(学生、未成年者 2,000円)  
 賛助会員:年会費1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)  
 法人会員:年会費 1口10万円  
 ご寄付:2,000円以上おいくらでも

<郵便振替口座>  
 口座番号 00180-2-25153  
 口座名 日韓アジア基金

- ・活動会員:活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権があります。
  - ・賛助会員:定期的にご支援頂ける方。
- ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニューズレター」をお届けします。

<お問合せ先> (日本語でお願いします)

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(A B K)内  
 T e l : 090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX: 03-3946-7599(A B K)  
 E-メール: [ilaf@iloveasia2.sakura.ne.jp](mailto:ilaf@iloveasia2.sakura.ne.jp)  
 H P : 検索サイトで「日韓アジア基金」で検索なさってください。

発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也